

新時代に向けた「優しく力強い白杵市」の実現をめざして

2022年度 施策の方針と当初予算



添付
資料

施策の方針

百年に一度ともいわれるコロナ禍、そして脱炭素社会、デジタル化など、現在は大変革期の真っただ中にあります。昨年1月の市長選挙をもって、引き続き市政4期目の重責を担わせていただくこととなり、新たなチャレンジのテーマとして「優しく力強い白杵市」づくりに全力で取り組み、この1年で「パートナーシップ宣誓制度」や「みんなで取り組む認知症条例」の制定、食文化分野での「ユネスコ創造都市ネットワーク」の加盟認定など、これからのまちづくりの可能性を大きく広げることができました。

令和4年度はこれら成果をもとに、取組を充実させ、更に上のステージに高める1年にする必要がありますと考えています。喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症対策とあわせ、これまで一貫して取り組んできた「住み心地一番のまちづくり」の6本の政策に引き続き取り組み、磨きをかけながら、各政策の更なる充実・発展を図ってまいります。

主な具体策としては、保育環境の整備や子ども医療費支援の充実、久木小野地区不燃物最終処分場跡地へのパークゴルフ場整備、市街地に残る武家屋敷等を宿泊施設として活用する「城下町泊」の推進、デジタル化・ネットワーク化による利便性の高い市役所づくりなど、持続可能で活力あるまちづくりに取り組んでまいります。

予算編成・7つの施策

令和4年度当初予算は、新型コロナウイルス感染症への対応を最重点課題とし、第2次白杵市総合計画に掲げた「日本の心が息づくまち」を基本に、重要課題である人口減少問題の克服に向け「白杵市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点プロジェクトに取り組み、「優しく力強い白杵市」づくりに繋げて行くための「7つの施策」を柱に予算編成を行いました。

- ① ウィズコロナ・アフターコロナに向けた取組
- ② 安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりの取組
- ③ 白杵の特性を活かした産業振興の取組
- ④ 住みたい、住み続けたい住環境づくりの取組
- ⑤ 安心安全な暮らしを守り支える環境整備への取組
- ⑥ 健康寿命を延ばすための取組
- ⑦ 新しい時代に対応できる行財政基盤づくりの取組

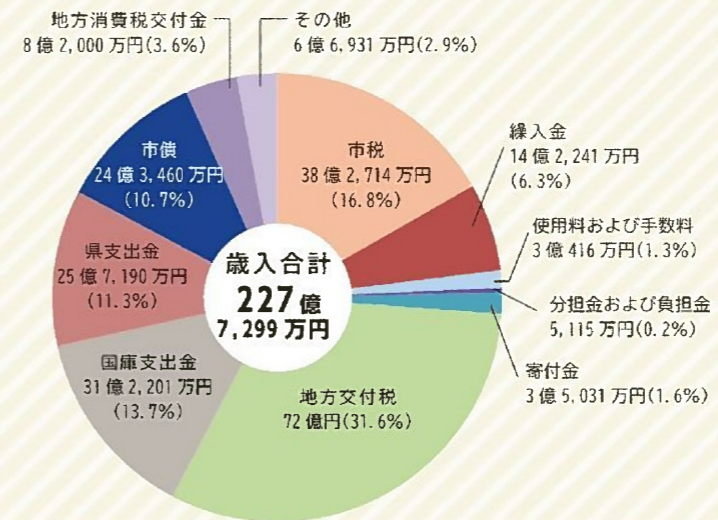
これら方針に基づき予算編成を行った結果、令和4年度一般会計予算の歳入歳出総額は、合併後最大となる227億7,298万5千円となり、前年度と比較して19億3,492万3千円、9.3%増の予算となりました。

増加した主な原因としては、普通建設事業が前年度比111億6,990万3千円、47.4%の大幅な増となったためです。

令和4年度は、新時代に向けた「優しく力強い白杵市」づくりに挑戦し、「住み心地一番のまちづくり」の更なる発展に向け、確かな一歩を踏み出す1年にしたいと決意しています。

当初予算

歳入



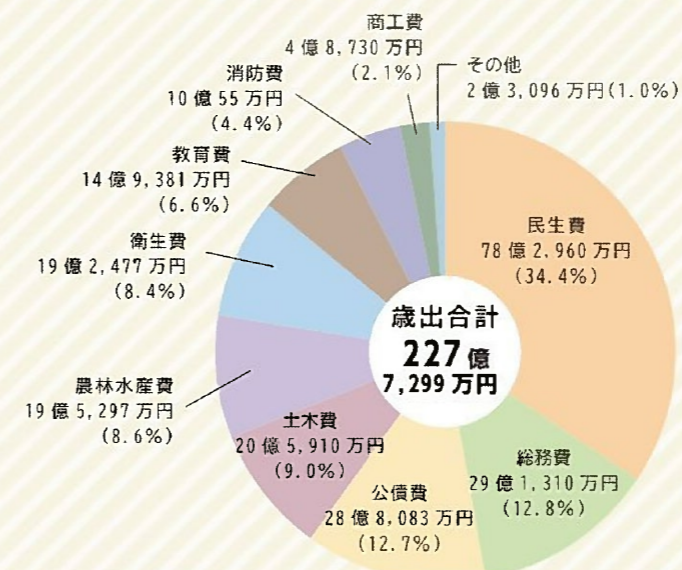
市税は個人住民税、固定資産税において増加が見込まれることから、前年度対比3.1%の増加見込です。

国庫支出金については、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増加などにより前年度対比10.5%の増加見込です。

県支出金については、ピーマン選果場整備事業に対する次代に繋ぐ園芸産地整備事業費補助金の増加などにより前年度対比38.9%の増加見込です。繰入金については、財政調整基金、減債基金などの取り崩し額の増加により、前年度対比20.7%の増加見込です。

市債については、市民会館改修事業や清掃センター周辺環境整備（パークゴルフ場整備）事業などの増加により、前年度対比0.9%の増加見込です。今後も計画的な取組を行います。

歳出



新型コロナウイルス感染症対策に関しては、ワクチン接種を円滑に実施し、感染拡大防止対策と社会経済対策の両立を図ります。また、非接触型社会の新しい日常に対応するための手続きのオンライン化などを推進し、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた取組を進めます。

安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりの取組として、子ども医療費助成の拡充（小中学生までの入院・通院医療費の完全無料化）や保育人材の確保のため保育士等就労応援金の交付に新たに取り組み、子育て・保育環境の充実を図ります。

地域資源を活かした産業振興の取組として、「ユネスコ創造都市ネットワーク」の加盟認定を受けて、さらなる本市の食文化の魅力発信を行うとともに、城下町の風情を活かした「白杵城泊」の取組を進めます。

安心安全な暮らしを守り支える環境整備への取組として、大規模災害に備え社災センター内に非常用発電設備や緊急消防援助隊などの支援活動拠点となる施設整備を行うとともに、周辺道路を整備しセンターへのアクセスの効率化を図ります

令和4年度特別会計予算

(単位:万円)

水道事業会計	110,017	白杵石仏特別会計	2,977	
下水道事業会計	162,930	浄化槽整備推進事業特別会計	1,012	
下水道事業 会計内訳	公共下水道事業	133,667	国民健康保険特別会計	535,046
	特定環境保全公共下水道事業	13,113	介護保険特別会計	526,774
	農業集落排水事業	14,979	後期高齢者医療特別会計	73,252
	漁業集落排水事業	1,171		

〈2022年度の主な事業〉

1. ウイズコロナ・アフターコロナに向けた取組（安心）

喫緊の課題である新型コロナウイルスワクチン接種は3回目接種に向けた接種体制の確保および強化を図り、間断なく対応できるように努めます。

令和3年度に配分された「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の全額を令和4年度に繰越し、感染拡大防止対策、社会経済対策などの各種対策の財源として活用し、機を逃さず、効果の高い施策の実施に努めます。



・ 新型コロナウイルスワクチン接種事業	・・・	1億6,263万円
・ 児童福祉施設等感染拡大防止対策事業	・・・	1,700万円
・ 観光PR事業	・・・	1,500万円
・ 新型コロナウイルス感染症緊急対策特別資金特別融資利子補給事業	・・・	1,050万円
・ 地域公共交通運行維持特別支援事業	・・・	570万円
・ 漁業者事業継続支援事業	・・・	500万円

2. 安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりの取組（希望）

子育てしやすい環境づくりとして、子どもの疾病の早期治療促進、子育て世帯の経済的負担軽減のため、「子ども医療費助成事業」の拡充を行い、令和4年7月診療分から小中学生の通院医療費一部自己負担を廃止し、小中学生までの入院・通院医療費を完全無料化します。

市内の認定こども園などに正規職員として就職した保育士などの方に対し、一人あたり10万円を就労応援金として交付する制度を新たに創設し、保育環境の充実を図ります。

新婚・子育て世帯が出産・定住しやすい環境づくりとして、新婚世帯家賃補助を拡充して継続実施します。

小中学生の基礎学力の定着・向上に向け教育内容の充実を図るため、ICTを活用した教育の拡充や、放課後チャレンジ教室の充実を図ります。令和4年度はデジタルドリルの導入を進めるとともに、電子黒板を市内3校に試験導入し効果を検証します。



・ 子ども医療費助成事業（令和4年7月診療分から小中学生までの入院・通院医療費を完全無料化）	・・・	1億1,701万円
・ 保育士等就労応援金交付事業	・・・	120万円
・ 総合公園子供広場整備事業	・・・	4,950万円
・ 新婚生活応援補助事業	・・・	1,180万円
・ ICT教育活用事業	・・・	1,287万円

3. 白杵の特性を活かした産業振興の取組（活力）

令和3年度にユネスコ創造都市ネットワークの食文化部門に加盟したことを受け、これまで以上に食文化の推進を図ることで、食に関わる産業を活性化し、人材育成と事業の継承・持続的発展につなげていきます。

新たなまちのにぎわいを創出し滞在型交流を促進するため、町なかの歴史的建造物を有効活用する「白杵城泊」に取り組み、本市の魅力を高めていきます。

農業では、ピーマン・イチゴ・甘しょなどの生産性向上を図るため、ピーマン選果場整備や機械整備に対する補助を行います。

また、ふるさと納税を通して引き続き白杵ブランドの特産品のPRを強化し「うすきの地もの」の価値を高め、地域経済の活性化や産業振興を図ります。

・ 白杵食文化創造都市推進事業	・・・	2,244万円
・ 白杵城泊推進事業	・・・	2,247万円
・ 次代へ繋ぐ園芸産地整備事業	・・・	7億1,166万円
・ 有機野菜等産地づくり促進支援事業	・・・	1,539万円
・ 産業・雇用促進事業	・・・	1,600万円
・ ふるさと納税促進事業	・・・	1億8,042万円



▲「食文化創造都市 白杵」ロゴ

4. 住みたい、住み続けたい住環境づくりの取組（安心）

移住・定住施策として、家賃補助や新築・改修に対する補助金に新たに県外移住者一括補助制度の創設、子育て世帯に対する上乗せ加算の補助を実施します。

住環境づくりの取組として、市内における宅地造成可能箇所の調査・検討を行い、宅地造成へとつなげます。また、市内密集市街地において課題となっている空き家を活用し、住環境の改善へ繋げるため、狭あい道路の整備、再開発の可能性についての検討に取り組みます。

コミュニティバス4路線について、小型車両への転換を行い、高齢者の利便性の向上を図ります。



・ 定住促進事業	・・・	6,344万円
・ 定住促進対策宅地調査事業	・・・	2,103万円
・ 安全快適くらしの道整備方針策定事業	・・・	566万円
・ コミュニティバス整備事業	・・・	427万円

5. 安心安全な暮らしを守り支える環境整備への取組（安心）

防災機能強化のため、社会基盤整備・災害支援センター内に、大規模災害に備えて非常用発電設備や緊急消防援助隊・自衛隊などの支援活動拠点となる施設整備を行うとともに、周辺道路の整備を行うことでセンターへのアクセスの効率化を図ります。

市指定避難所の機能強化として、白杵公園避難路（古橋口踏切）に照明を7基設置します。

台風や大雨などに備え、引き続き乙見ダムの堆積土砂を取り除き、自然災害対策の強化を図ります。

新たな取組として、小型の軽救急自動車を導入し、救急車が近づけない場所に居住する方への早急な処置開始や、重篤な方に対する救命率の向上を図ります。



▲ 軽救急自動車イメージ

・ 防災施設整備事業（社災センター敷地内）	・・・	1億8,720万円
・ 社災センター周辺道路整備事業	・・・	8,700万円
・ 白杵公園避難路整備事業	・・・	1,130万円
・ 乙見ダム浚渫事業	・・・	3,000万円
・ 軽救急自動車購入事業	・・・	1,805万円

6. 健康寿命を延ばすための取組（安心）

「うすき石仏ねっと」の取組や、健診内容の充実による早期発見の取組、また、地域包括ケアの推進などにより、国保医療費・介護給付費の伸びが抑えられています。

さらなる健康増進の取組として、不燃物最終処分場跡地へのパークゴルフ場整備に取り組みます。パークゴルフは誰でも気軽に楽しめるスポーツであることから、本市における高齢者の生きがいづくりをはじめ、市民の健康づくりやスポーツ振興にも寄与するものと期待しています。

また、中央地域ふれあい交流館（ほっと館）の空調整備を改修し、高齢者の健康づくりの場の整備を図ります。



▲ パークゴルフ場イメージ

・ うすき石仏ねっとの充実強化	・・・	1,049万円
・ 清掃センター周辺環境整備事業（パークゴルフ場整備）	・・・	1億9,520万円
・ 中央地域ふれあい交流館（ほっと館）改修事業	・・・	2,106万円

7. 新しい時代に対応できる行財政基盤づくりへの取組（活力）

新型コロナウイルス感染症による新しい社会づくりが求められる中で、積極的なデジタル化・ネットワーク化による行政サービスの維持と利便性の向上が求められています。このことから、新たな取組として、令和4年3月1日から各種証明取得のコンビニ交付を開始し、市民の利便性の向上およびマイナンバーカードの取得促進を図ります。

また、「白杵市DX推進計画」に基づき、申請書を市民に書かせないデジタル申請窓口など行政手続きのオンライン化の推進や、自治体情報システムの標準化・共通化に取り組みます。



・ コンビニ証明発行システム対応事業	・・・	792万円
・ マイナンバーカード普及促進事業	・・・	1,878万円
・ スマート自治体事業（電子申請の導入や庁舎内LAN無線化、RPA環境構築など）	・・・	2,511万円
・ 行政手続オンライン化推進事業	・・・	1,922万円